

西田学芸員が語る、 「ふらっとぱ〜く」の舞台裏！

「ふらっとぱ〜く」は実験的な箱！？

■まずは「ふらっとぱ〜く」の「ふらっと」についてお訊きします。

いろんな方が「ふらっと」な立場で「ふらっと」立ち寄って楽しんでいただけるような展示になればなという願いを込めています。教養のためとかリラクセスのためなど目的を持って来ていただいてもいいけれど、肩の力を抜いて会社帰りや学校帰りに文字通り「ふらっと」立ち寄ってほしいですね。

いくつかのブース（エリア、ゾーン？）

・ARエリア

作品-AR-写真？

グルグル回す？

ドーナツ型イゼル

作品を置くところかな？

ゾーグレンは見てみるか？

さわるエリア？

何作品...

西田学芸員による展覧会構想
手描きスケッチ

■「ふらっとぱ〜く」の「ぱ〜く」についてはどうですか？

アートで楽しんでほしいという思いがあって「ぱ〜く」という言葉をつけました。静かに見ないといけないなんていう雰囲気よりは、もっと気楽に遊んでもいいかな、お喋りしてもいいかなって思っていたきたいですね。芝生をイメージしたグリーンカーペットが敷いてあるなど、本物の公園みたいな演出もあります。

■「ふらっとぱ〜く」の目玉ってなんでしょう？

「意見交流エリア」「AR作品エリア」「さわる作品エリア」「Such Such Such エリア」の4つのエリアが「ふらっとぱ〜く」の目玉です。各エリアで違った体験により作品を楽しむことができます。もちろん触れる作品の展示は今までありませんでしたし、ARも「おうちに居ながら美術館」というカタチでやっています。今回はそれらを集めたアンサンブル的な展覧会とすることで、普通の展示とは違う賑わいを演出したいなという思いがあったんです。この実験的な「箱」に注目してほしいですね。

■「ふらっとぱ〜く」は、どんな経緯で誕生したのですか？

最初は「コレクションメモリーズ」という全然違う企画を考えていました。たとえば何年に岐阜県美術館に入って何処に貸し出されてといった、コレクションが持っている記憶をパネルにして並べるようなちょっと固い展示です。でも、企画が全然進まないんですよ。自分で決めたはずなのにモチベーションが上がらないんです。「アカン、なんかうまくいかへんなア」って感じです。美術館は作品と静かにじっくり向き合うというシ

ステムができあがっていますが、どこかハード面を変化させれば来館者と作品の向き合い方も変わるんじゃないかと常々考えていたので、それをカタチにしようと思ったわけなんです。これまでの経験から、来館者の方に「能動的な体験」という一種のストレスを与えることで一般的な美術館とは違うアクションが期待できるんじゃないかと思ったのです。これが「ふらっとぱ〜く」誕生のきっかけです。

■「ふらっとぱ〜く」が始まるまでの流れを教えてください。

「ふらっとぱ〜く」は所蔵品展なので、企画展の様な、作品調査行つて、交渉して、依頼して、トラック手配して・・・みたいな流れはないです。ひたすら「図面を作って、できるか考えて、問題あったら戻って」という試行錯誤の連続です。核となる展示作品は今年の4月頃に決めましたが、他の展示品は今も調整している最中です。企画が先にあって「それにあう作品は何か？」を考えるのは、まさに頭の体操です。

もちろん、照明にもこだわります。照明調整を専門業者が行う美術館もありますが、当館は学芸員が調整することが多いです。今回の展覧会では「ぱ〜く」らしく明るい展示室にしたいと考えています。開幕前はおそらく自分が脚立に上って照明を最終調整していると思います。

ふらっとぱ〜く

見る、触れる、話す、感じる、考える

2025 9.5 (Fri) ▶ 10.5 (Sun)

会場：岐阜県美術館 展示室3
開館時間：10：00～18：00（入場は17：30まで）
夜間開館日：9月19日（金）は20：00まで（入場は19：30まで）
休館日：月曜日（祝・休日の場合は翌平日）
観覧料：一般340円、大学生220円、高校生以下無料



SPECIAL THANKS: 西田創さん

発行 岐阜県美術館アートコミュニケーター「～ながラー」∞サークル丸
かわら版 第一号 第一版 令和7年8月

問合せ 岐阜県美術館アートコミュニケーター担当
岐阜県岐阜市宇佐 4-1-22
TEL058-271-1313 FAX 058-271-1315

